

Toyouko

いのち響きあう 豊岡をめざして

豊岡市生物多様性地域戦略



2013
豊岡市

いのち響きあう 豊岡をめざして

豊岡市生物多様性地域戦略

あいさつ

豊富な雪解け水で小川が潤される春、我が家の周りでも田植えの準備が始まります。やがて田んぼに水が張られると、サギやコウノトリがやって来てはエサを探す姿が見られ、梅雨が明けて暑さが本格的になる夏には、虫を求めて子どもたちが駆け回ります。秋には垂れる稲穂にアカトンボがとまり、米づくりの終わった田んぼはやがて雪原となります。

四季折々に訪れる郷の風景は、私たちの暮らしと密接に関わりながら形づくられてきました。

約700km²にも及ぶ豊岡市を見渡すと、1000m級の山や緩急さまざまな河川、変化に富んだ海岸線など、多様な地形が広がっています。そこでは山・川・海のさまざまな生きものが相互に作用しあって命をつなぎ、豊かな自然を形づくっています。

一方豊岡には、失われてしまった自然もあります。私が子どもの頃には、学校帰りの水路でメダカを見ることもできましたし、田んぼには小魚を狙うタガメの姿がありました。しかし今、メダカはすっかり減ってしまい、タガメはもう何十年も見つかっていません。

今ある豊かな自然を保全し、失われてしまった自然を再生するために、私たちは何をすべきなのでしょうか。

私たちの命が、かけがえのないものであるように、全ての生きものの命も、かけがえのないものです。自然界に大きな影響を及ぼす力を持つ私たちは、多様な生きものと共に暮らしていること、多様な生きものの恩恵を受けて命をつないでいることを深く理解し、その力を自然の保全と再生に注がなければなりません。

ここに私たちは、人と生きものとの共生のあり方を再構築し、命のつながりを広げ未来へ引き継いでいくための羅針盤となる「豊岡市生物多様性地域戦略」を策定しました。

豊岡における生物多様性保全の要とは――。その答えを共に探していきましょう。

この戦略が皆さんの参画により進められ、豊かな地域づくりが活発化するとともに、生きものに注ぐ眼差しがさらに豊かになり、人もコウノトリも、小さな虫までもが生き生きと暮らす豊岡なることを願ってやみません。

平成25年9月

豊岡市長 中貝 宗治



いのち 響きあう 豊岡を めざして



1 豊岡をみつめる 1

1. 豊岡のすがた 2
2. 「生物多様性」を考える 8
3. 数々の「ことば」から 10
4. 私たちの考える「地域」 12
5. 地域の姿を映す「小学校歌」 13



2 戦略を描く 19

1. 位置づけと方向性 20
2. 目標とする姿 22
3. 取り組み方 23
4. 高校生が描く未来像 24
5. 豊岡の基本戦略 26



3 戦略を進める 29

1. 5年ごとの戦略 30
2. 目指すべき5年後の姿 31
3. 短期戦略I(2013~17) 32
4. 具体的な取り組み 34
5. 推進のあり方 53



4 今後に向けて 55

1 豊岡をみつめる

私たちは今、豊岡の生物多様性を豊かにしていくための「地域戦略」をつくろうとしています。
策定にあたり、地域の実情に合った取組みを展開していくためには、
まずは豊岡の現状を知ることが必要です。

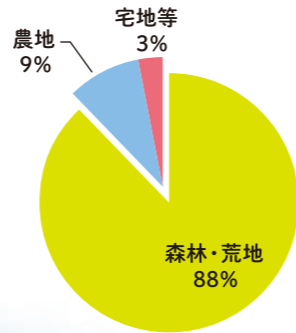
私たちが暮らすこの豊岡は、どんな特長を持っていて、他の地域とどう違うのでしょうか。
そして、その豊岡で生物多様性を考えていく際に、意識すべきことは何なのでしょうか。

この章では、改めて豊岡のすがたを見つめなおし、
戦略策定の基礎となる考え方を整理します。



1 豊岡のすがた(風土)

上空から眺めてみると、普段は気づかない豊岡のすがたが見えてきます。連なる山々、大小さまざまな川、その周辺に広がる盆地、そして海——。そこに「気象の博物館」とも言われる特徴的な気象条件が加わります。この風土こそが、私たちの暮らしの基盤です。



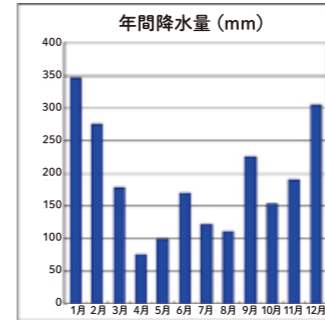
●日本海

大陸の縁が割れ、切り離されることで生まれた日本海は、割れ目の深い部分から陸棚の浅い部分まで、複雑な海底地形を有しています。深海部分は冷たい「日本海固有水」で満たされ、表層には「対馬暖流」が流れており、多様な環境に応じたさまざまな生きものが生息することが、豊かな漁場の形成につながっています。

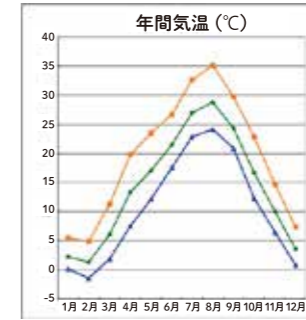
●市域面積 697km²

周囲を山に囲まれたわずかな平地と谷筋。「但馬(たじま)」という地方名は「谷間」に由来すると言われます。

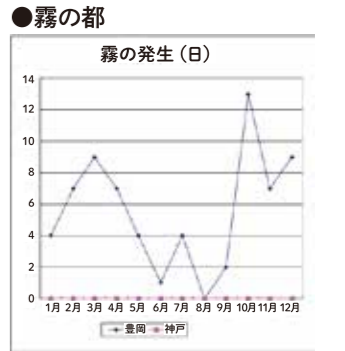
●弁当忘れても傘忘れるな



●国内最高気温を記録する日も

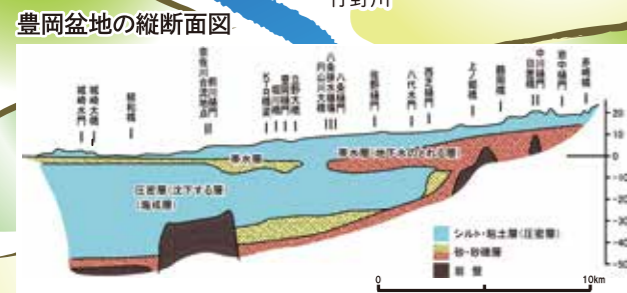
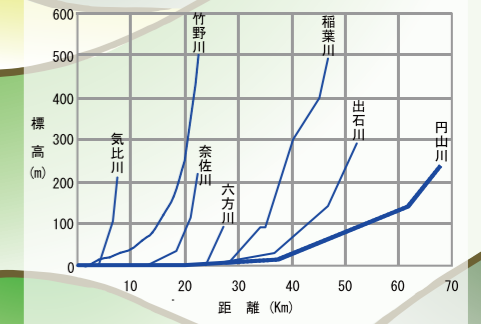


●霧の都



●ゆるやかな円山川～池沼と見間違ふほどの下流部～

円山川の下流域は、河川勾配約10,000分の1(10kmで1mしか下がない)で非常にゆるやかに流れます。普段は鏡の面のような美しい姿を見せますが、ひとたび大雨が降るとすぐに溢れ、水害を引き起こす荒々しさもあわせ持ちます。



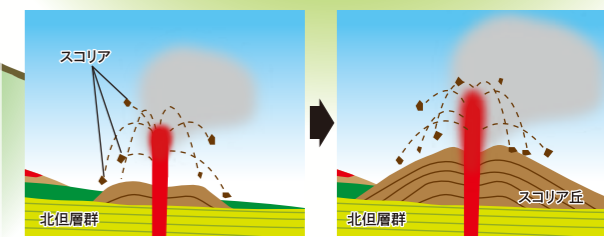
●豊岡盆地

豊岡周辺は、硬い地質、軟らかい地質などの「地質多様性」に富んでいます。海面が今より100m以上低かった時代に、川の流れて軟らかい部分が削られ、硬い部分が残し、ピンノ口(ボトルネック)のように出口の狭い内湾が形成されました。河口の両側まで山が迫る景観は特徴的です。

その構造が、広大な流域から集まる土砂の堆積を促し、地下40mもの深さまで沖積層が続く盆地が誕生しました。軟弱な地盤の上に築かれた豊岡のまちは、まるで豆腐の上に住んでいるようなのだと例えられます。

●神鍋火山群

近畿地方で最も新しい火山である神鍋山をはじめ、7つの火山が群を成し、約70万年から1万年前までの間断続的に噴火が起きました。溶岩となって流れ出した玄武岩は、稲葉川に沿って溶岩流を形成し、変化に富んだ景観をつくり出しています。スコリア(噴火のしぶきでできた黒っぽい砂や礫)が積み重なってできた地盤は浸透に優れ、高原野菜の生産や、湧水によるマスの養殖、ワサビの栽培などの産業につながっています。



ピックアップ ラムサール条約登録湿地「円山川下流域・周辺水田」(2012.7登録)

汽水域である円山川下流域と氾濫原の名残を今に残す周辺水田が、自然再生によってコウノトリの生息地によりみえり、国際的に重要な湿地として登録されました。(河口から約12kmまでの円山川を中心に、その周辺に位置する水田など560ha)

ピックアップ 山陰海岸ジオパーク(2010.10世界ジオパークネットワーク加盟)

地殻変動や日本海の海面変動によって形成された貴重な地形・地質遺産が、市内全域に残っています。玄武岩の語源となった「玄武洞」では、約200万年前の地球は磁場(S極とN極)が逆転していたことが発見されました。





潜ればわかる!
磯は生きものの宝庫

美しい海と砂浜に歓声が響く

穏やかに流れる円山川

汽水城に生息するヒメマイトンボ



岩礁で暮らすスズメダイの群れ

「何か、おる〜?」
市内に広がる生きもの調査

玄武岩を用いた護岸 歴史ある町並み

市内のあちこちに温泉が湧出
(写真は城崎温泉)



残したい 子どもたちの遊べる川

大河の川霧が、幻想的な雲海を生む

一方で、荒廃が進む里山の姿も

1 豊岡のすがた(くらし)

独特の風土に生まれ、私たちの“くらし”があります。
さまざまな表情を見せる・・・これが現在の豊岡の姿です。



変化に富んだ日本海の海岸線

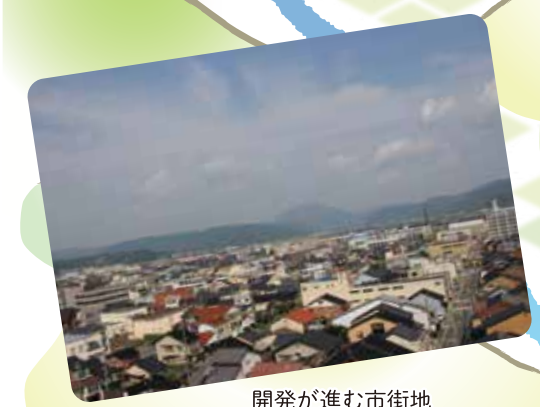


松葉カニは、代表的な海の恵み

「小さな自然再生」で休耕田をメダカの住みか



水辺のごみは、最後はすべて浜へ



開発が進む市街地



外来種の侵入は大きな問題
(写真は駆除のため捕獲されたブルーギルなど)



冷たい雪も、大切な恵み



湿地創出など自然再生工事が進む河川



自然の造形美(玄武洞公園)



裸足ってきもちいい〜!!



米づくりは、やっぱり豊岡の暮らし・風景の基本!



洪水によって維持される丸石河原



コンクリート水路は、ひっそりと水を運ぶ



ビオトープへと姿を変えた各地の休耕田



何の階段?
田んぼと水路をつなぐ魚の道



コウノトリが舞う田んぼが増えてきた



増えすぎた鹿による食害は深刻



蘇武岳(そぶだけ)周辺には、ブナの巨木が



秋の里山を彩る
ソバの花



オールシーズン楽しめる高原
(神鍋高原)



集落で守られているコブシの大木



6月、トンボの羽化があちこちで始まる



オオサンショウウオがいっぱい住んでる 上流の川



農村での暮らしを
体験できる農家民宿



さびしいな・・・米づくりをやめた田んぼ



大切に受け継がれる伝統芸能
(写真は法花寺万歳)



神鍋山で行われる山焼き



6月、トンボの羽化があちこちで始まる

2 「生物多様性」を考える

1 そもそも“生物多様性”って何？

地球上には、さまざまな種類の生きものが暮らしています。同じ種類の生きものの中にも個性があり、似たように見えても、少しずつ形が違ったりします。また、山や川、海、田んぼなど、それぞれの環境の中でもさまざまな生態系が形づくられています。

『いろんな生きものが互いにつながりあいながら、全体が成り立っている』
まずは、そんな姿をイメージしてみましょう。

タテにもヨコにもナナメにも、複雑に絡みあっている生きものたち。

動物、鳥、魚、昆虫、植物、微生物・・・
食べたり、食べられたり。利用したり、利用されたり。
みんな一人では生きられない。
いのちは、つながっている。

2 生物多様性の恵み

私たちの暮らしは、互いにつながり合う生きものとの関係の中で、多くの恩恵を受けています。空気も水も食べものも、建物や衣服、薬に至るまで、生物多様性がなければ存在し得ないものばかりです。モノの恩恵だけではなく、山や海での自然体験が豊かな文化の源になるなど、生物多様性は私たちの暮らしに欠かすことができません。

生物多様性の恵みを「生態系サービス」という言葉で言い表し、次のような説明もなされています。

- ①基盤サービス(土壌の形成や一次生産、生息環境の形成など)
- ②供給サービス(食料や水、木材・繊維など)
- ③調整サービス(気候調整、洪水制御など)
- ④文化的サービス(精神的、教育的、レクリエーションなど)

人と自然とのつながり

人と人とのつながり

“小さなつながり”

健全な生態系を支える
生物多様性

生物多様性が失われると...

海の生態系

田んぼの生態系

“中くらいの
つながり”

山の生態系

“大きなつながり”

3 生物多様性の危機

私たちの生活に
欠かすことのできない生物多様性。
そんな生物多様性に、
いま危機が忍び寄っています。

開発・乱獲による自然破壊

過剰で無配慮な農地・宅地開発や森林伐採など、急速な開発の影響を受けて生きものや生態系が悪化したり、生息地が消失したりしています。また、鑑賞や商業利用を目的とした乱獲・採取による動植物の減少も深刻です。

豊岡でも、画一化された開発が進み、生きものや生態系が失われています。

適度な関わりの減少による自然崩壊

ライフスタイルが変わり、人が里山などの自然を利用しなくなったことで、生態系バランスが崩れてきています。

豊岡でも、植林地が放置され、シカなど特定の種類の生きものが増えたり、山が水を蓄える機能が低下するなどさまざまな問題が起こっています。

外来種や化学物質による生態系の破壊

本来その土地にいない外来種が持ち込まれることで、生態系が崩れ、在来種の生息が脅かされています。また、生物への影響が未解明な化学物質の使用により、生態系が破壊される恐れもあります。

豊岡でも、ブラックバスやブルーギルが在来魚を追いやり、セイタカアワダチソウがススキ群落の景観を乱すなど、目に見える影響が出ています。

どのつながりが壊れても、
互いに影響を受けてしまう！

私たちは、長い時間をかけて自然と折り合いをつけながら、人と自然、人と人とがつながり合うバランスの良い地域社会を構築し、受け継ぎできました。これこそが、ふるさと豊岡の基本的な構造であり、それをつくってきたのは豊岡人の誇りでもあります。

でも、このようなつながりは、どこか一箇所が壊れてしまうとお互いが影響を受ける微妙なバランスの上に成り立っています。忍び寄る危機を放っておくと、影響は全体に広がり、私たちの心のよりどころでもある、ふるさととの原形までもが失われてしまう恐れがあります。



3 数々の「ことば」から

コウノトリを切り口に、豊岡らしい生物多様性の世界を取り戻そうとしている私たち。
そんな豊岡に心惹かれた有識者の方々が数々のことばを残されています。
豊岡に何を感じ、何を見出されているのでしょうか。

確かな未来は、懐かしい風景のなかにある。
豊岡には尊い風景が存在している。

やぎゅうひろし
柳生 博 / (財) 日本野鳥の会 会長

外から見れば穏やかに見える豊岡の風景。しかしそれは、厳しい自然
とのせめぎ合いを積み重ねて手に入れた穏やかさだ。
だからこそ、自然に敬意を表しているのだと思う。

わくい しろう
涌井 史郎 / 国連生物多様性の10年日本委員会委員長代理

豊岡の里は、
アニメでみたトトロの世界のようだ。

リチャード・リンゼイ / イーストロンドン大学教授

コウノトリのような大きな鳥が生きていけるほどの無事 (= 健全) な世界。
そういう世界を象徴するものがあって、豊岡はうらやましいなと思います。

うちやまたかし
内山 節 / 哲学者

ここではおびただしい命が不思議な秩序をつくり出している。
そんな命のにぎわいに守られて、人々の静かな営みがある。

わたに
鷺谷 いづみ / 東京大学大学院教授

これらのことばは、人も自然も一体となった社会をつくりあげようとする豊岡の歩みを評価し励ますことばです。
このことは、あらためて私たちの暮らし(自然や文化)を見つめ直す機会を与えてくれたものでもありました。

生物多様性は、地球規模の問題であると同時に、極めて地域レベルの問題でもあります。生きものや人のつな
がり、その地域固有の自然や風土、社会のあり方 (= 文化) と一体のものだからです。
とすれば私たちは、豊岡の生物多様性を考えるにあたり、生きもののバランスだけに焦点を当てるのではなく、
地域社会 (共同体) まるごとのあり方を考えなければなりません。

では、豊岡における地域社会とは――?

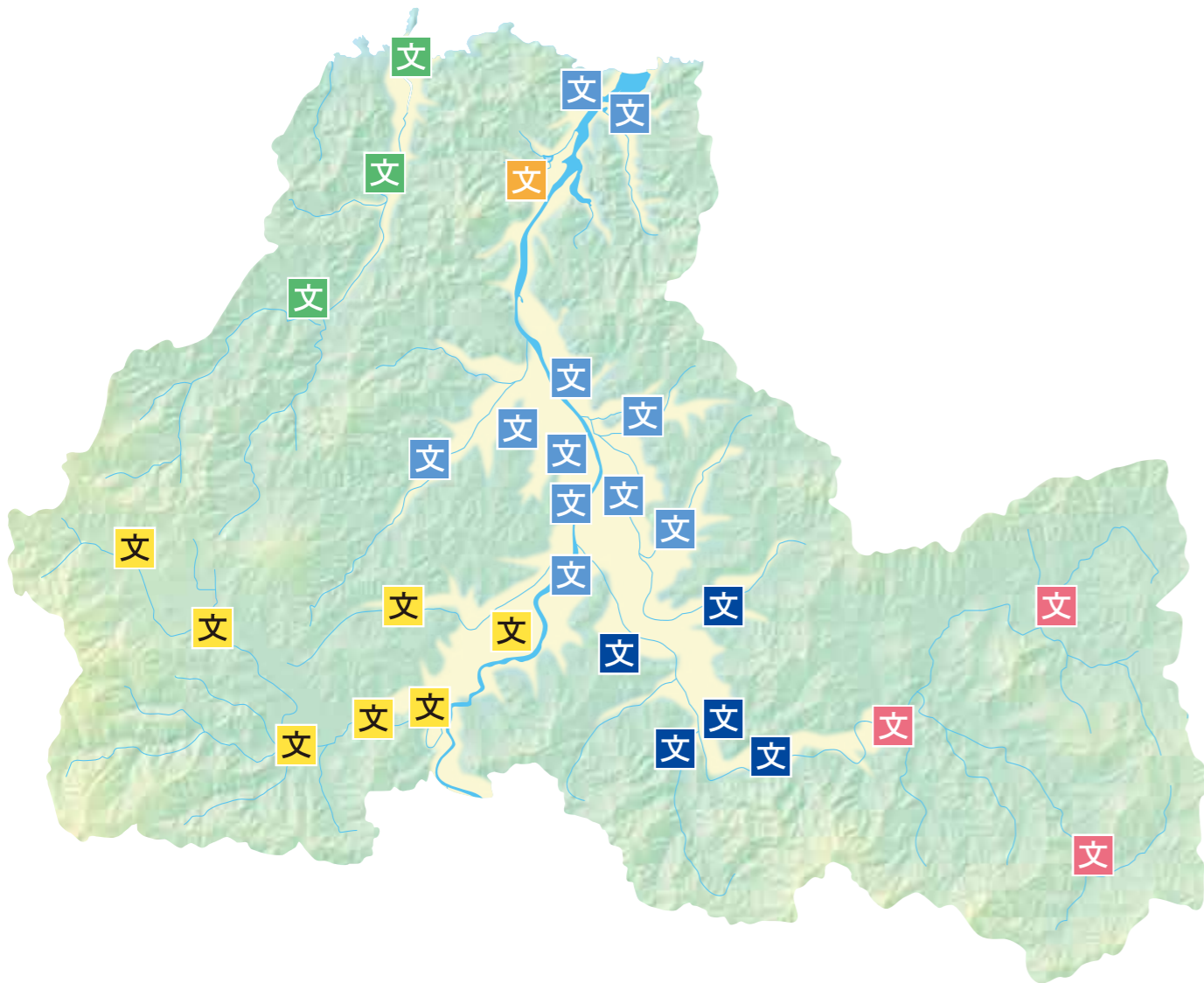
約 700 km² に及ぶ広大なこのまちには、それぞれの地域ごとに固有の自然や社会、文化があります。
私たちが日常的な暮らしの中でつながり合っていて、すぐにイメージでき、責任を持てる地域の範囲とは一体
どのくらいのものでしょうか。

ここでは、その地域の単位ともいえるべき身近な範囲 “身近な豊岡” に目を向けてみましょう。



4 私たちの考える「地域」

豊岡には、山間地から盆地、海岸に至るさまざまな風土の中に、実に「357」もの行政区があります。そこからもう少し視野を広げると、見えてくるのが「30※」の小学校区。それぞれの校区は、それぞれに特徴ある山や川、田んぼ、住居地、生きもののつながりを示し、“身近な豊岡”を形成しています。そこには、それぞれの地域固有の、しかし普遍性も見られる自然や文化、社会の姿を描き出している「ツール」を見出せます。それは——『校歌』です。



※2013年3月時点



5 地域の姿を映す「小学校歌」

例えば、八条小学校（豊岡地域）の校歌をひも解いてみると・・・

八条小学校歌

- 一 但馬富士から のぼる日が
今日もぼくらに 呼びかける
がんばれ元気な 但馬っ子
ぐんぐんのびろよ 精一杯
一人一人が八条の 若い力だ
若い芽だ
- 二 流れ豊かな 円山の
水がわたしに 呼びかける
がんばれ元気な のぼりあゆ
びちびちはねろよ 精一杯
一人一人が八条の 若い希望に
燃える子だ
- 三 緑輝く 妙楽寺
鐘がみんなに 呼びかける
がんばれ巣立ちの こうのとり
元気ではばたけ 精一杯
一人一人が八条の 若い誇りに
生きる子だ



※校歌には、地域のランドマークとなる自然や、そこにあるべき人々の姿、心のありようへの願いが表現されています。

皆さんは、自分の出身小学校の校歌を思い出すことができますか？そこに描かれたふるさとの姿を思い浮かべることができるでしょうか？

老若男女を問わず、地域の誰もがイメージを共有できる校歌には、生物多様性を支える地域社会のあり方を考える際の大きなヒントが隠されているように思います。



市内全小学校*

の校歌(抜粋)

※ 2013年3月時点

神武の山の 桜花 朝日をうけて かぐわしく
句う心に たぐいつつ やがて世に咲き かおらばや

豊岡小学校

谷深く 出でし真清水 末遠く 海原なせる
われらまた かかる里わに 美しく 強く進まむ 雲のごと 希望は湧けり

三江小学校

めぐる山々 豊けき田の面 はばたく鶴の むれさながらに
心あわせて つとめいそしむ わが田鶴野は とわにさかえん

田鶴野小学校

春のふたばか 稲田の苗か 望みは輝き つとめは重し
思えきたえ きたえ思え 伸びゆく日本の 柱ぞわれら
思いてきたえよ 柱ぞわれら

五荘小学校

高くとべとべ こうのとりの むらさきにおう 三開の
このそら世界に つづいてる 花の窓べに 声あげて
あすのしあわせ よびかける 日ざしの中の 新田校

新田小学校

前にそば立つ 大師山 流れも清し たで川の
つくす誠を 中筋に 生まれしわれらの 幸せを
朝な夕なに 感謝して 学びの道に いそしまん

中筋小学校

雪に輝く 矢次負いて 桜並木に そひてぞ立つは
これぞ わが家 我等の集ひ 光明るく ほがらに立てり

奈佐小学校

朗らなり 東と西と 呼びかわし 波高き日も よき子らは
希望明るく 競い合う 学べ 尊べ 尊べ ああわが母校

港東小学校

豊かなり 円山川を ゆく水の 永久に栄ゆる 象徴として
岸の若葦 茂るかな 賞めよ 讃えよ 讃えよ ああわが家郷

港西小学校

三開の峰 いや高く 姿は清し 但馬富士
強き力を 仰ぎつつ 学びの道に いそしまん

神美小学校

朝な夕なに さえざえと み空にたてる 来日のみねの
おおしき姿は われらの姿 きたえよ ゆけよ 勤勉努力
道ははるけく のぞみは高し

城崎小学校

のぞむに海の さとしあり 仰ぐ山の しめしあり
遊びてきたえ 身をつよく 学びてはげめ ひとのみち

竹野小学校

静かにわたる なご風に ひたいの玉汗 黄金なす
幸こそおとし 中竹野 努め励めよ 健やかに

中竹野小学校

風渡る 山の緑に 抱かれて 集うも楽し 今日の日
雄々し矢次に 身体を鍛え 尽きせぬ夢を 語ろうよ
ああ学び舎は 日ごとく新た 竹野 竹野南小学校

竹野南小学校

山脈遠く 空に映え 豊かに流る 円山の
拓く沃野に 緑もゆ ああこの幸に つつまれて
厳然とたつ 名城の 姿とたたら いらかこそ
府中 府中 府中小学校

府中小学校

平和な里に はぐくまれ 楽しいわれら 小学生
強くなれよと 励ましあって 見上げる空に 大岡の峰

八代小学校

ゆうべ静かに 水澄みて 月を映せる 円山川の ゆたけく清き その心
これぞ我等の 鑑なる 誠捧げて 共に学び 共に習う
日高 日高 楽しき我が学舎

日高小学校

とわにも尽きず 稲葉川 うるおす里に 野に満てる 豊かな力 身にうけて
伸ばす学力 生くる道 修めいそしむ ふるさとの 花と開かん ああ静修われら

静修小学校

めぐる山々 花紅葉 みより豊けき 広野原
三方の郷の とこしえに 榮きずかん 我らいざ

三方小学校

うちなびく 四方の山並み 仰ぎつつ 緑したたる 丘の上に
朝日に映えて 幾星霜 由緒も深き 学舎に 集える幸を 念ほいて
学びの道に いそしまん われら清滝小学生

清滝小学校

湧きて流るる ひとすじは 稲葉川の 澄める水
清き川面を そのままに 高き望みを めざしつつ

西気小学校

おきての旨を かしてみて いざいそしまん 学びの道
仰げば高し 有子山 わけている道は けわしくも
強く雄々しく のぼりなん

弘道小学校

床尾嶽の 朝日影 七年山の 夕映えや
奥山川の 溪流に かおる文化の 我が校舎

福住小学校

緑をひたす 出石川 水清らかに たゆみなく 希望をのせて 流れゆき
果ては大きい うみに出て 世界の海の 水となる

寺坂小学校

田鶴はぐくむ 森井山 羽ばたくつばさ うるわしく
はゆる姿を そのままに ああ小坂校 進まん

小坂小学校

眺め遙けき 田の面より 不断に香る 土地の精
吸いていそしむ 励みつつ 共に築かん 理想郷

小野小学校

山むらさきに 水清く ゆたかな幸に めぐまれた
平和な里に はげみつつ 心と心を おおらかに 結ぶよ 合橋小学校

合橋小学校

若葉はもえて 花ひらく 心ゆたかな この里に 希望を胸に 手をつなぎ
たすけ伸びゆく この集い 高橋 高橋小学校

高橋小学校

仰ぐ日ざしは 子午線の上にかがやく 春と秋 時の歩みの たゆみなく
きょうもいそしむ 資母の子は 強く 正しく 美しく

資母小学校

こうしたふるさとの姿をきちんと守り継ぐためにも、
私たちは、この豊岡の生物多様性を考えるにあたり、

小学校区を“身近な豊岡”の一つの単位とし、
地域固有の風土と、その上に成り立つ共同体を基本とする。

共同体を構成するすべてのもの(人も自然も生きもの)にも
あたたかいまなざしを向ける。

人が生きるためだけに磨いてきた知恵を、
その構成員すべてのために活かす社会へと舵を切る。

ことを決意します。



2 戦略を描く

では、実際に豊岡の生物多様性を豊かにしていくためには、
どのような考え方で現状をとらえ、どのような将来のイメージを描き、
具体的に何をやっていけばいいのでしょうか。

目標を掲げ、それを実現するための作戦を練る――。

この章では、第1章「豊岡を見つめる」をもとに、
豊岡の生物多様性保全に向けた「戦略」を形にしていきます。



1 位置づけと方向性

①位置づけ

生物多様性を通じて 豊岡を一層輝かせる

この戦略は、豊岡市総合計画（後期：平成24～28年）に掲げるまちの将来像、『コウノトリ悠然と舞うふるさと』を、生物多様性への確かなまなざしに基づいて実現しようとするものです。

なお、豊岡では、「いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」（平成24年6月）において、かけがえのないいのち、限りあるいのち、つながっているいのちへの意識を市政の根底に置くことを、また、「コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」（平成18年12月）において、すべての施策における環境への配慮を謳っています。この戦略では、その基本的な考え方に基づいて、市の施策全般における生物多様性保全の道筋と方法を示します。

まちづくりの流れ

年度	計画・条例	キーワード
H18	コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例	「自然と折り合いをつけながら生きる」
H18	豊岡市環境経済戦略	「環境行動を持続可能にするための環境と経済の共鳴」
H18	豊岡市総合計画	「コウノトリ悠然と舞うふるさと」 ・安全に安心して暮らせるまち ・人と自然が共生するまち ・持続可能な「力」を高めるまち ・未来を拓く人を育むまち ・人生を楽しみお互いを支え合うまち
H19	豊岡市環境基本計画	「豊かな自然とおおらかな文化」
H24	いのちへの共感に満ちたまちづくり条例 豊岡市景観計画	「いのちへの共感」 「豊岡らしい風景づくり」
H25	生物多様性地域戦略	「生きもの・いのちへのまなざし」

この戦略は同時に、生物多様性基本法（平成20年6月）及び生物多様性国家戦略（平成24年9月改訂）に基づく、市町村が定める「生物多様性地域戦略」にあたるものです。その県版にあたる生物多様性ひょうご戦略（平成21年10月）においても、市町を含む様々な主体と情報を共有し、参画と協働により連携して取り組むことが明示されています。

この戦略においても、具体的な実践は市の施策だけで完結するものではなく、関係する行政、事業者、民間団体や住民などにも理解を求めながら協働で推進するものと考えています。

もちろん、生きものの暮らしや地域社会のつながり自体が、一つの市だけで完結するものではありません。市域を越えて暮らす野生動物がいますし、私たちは近隣の地域社会ともゆるやかに交流しています。

この戦略の実現には、広域的・横断的な視点を持った取り組みも必要です。

②方向性

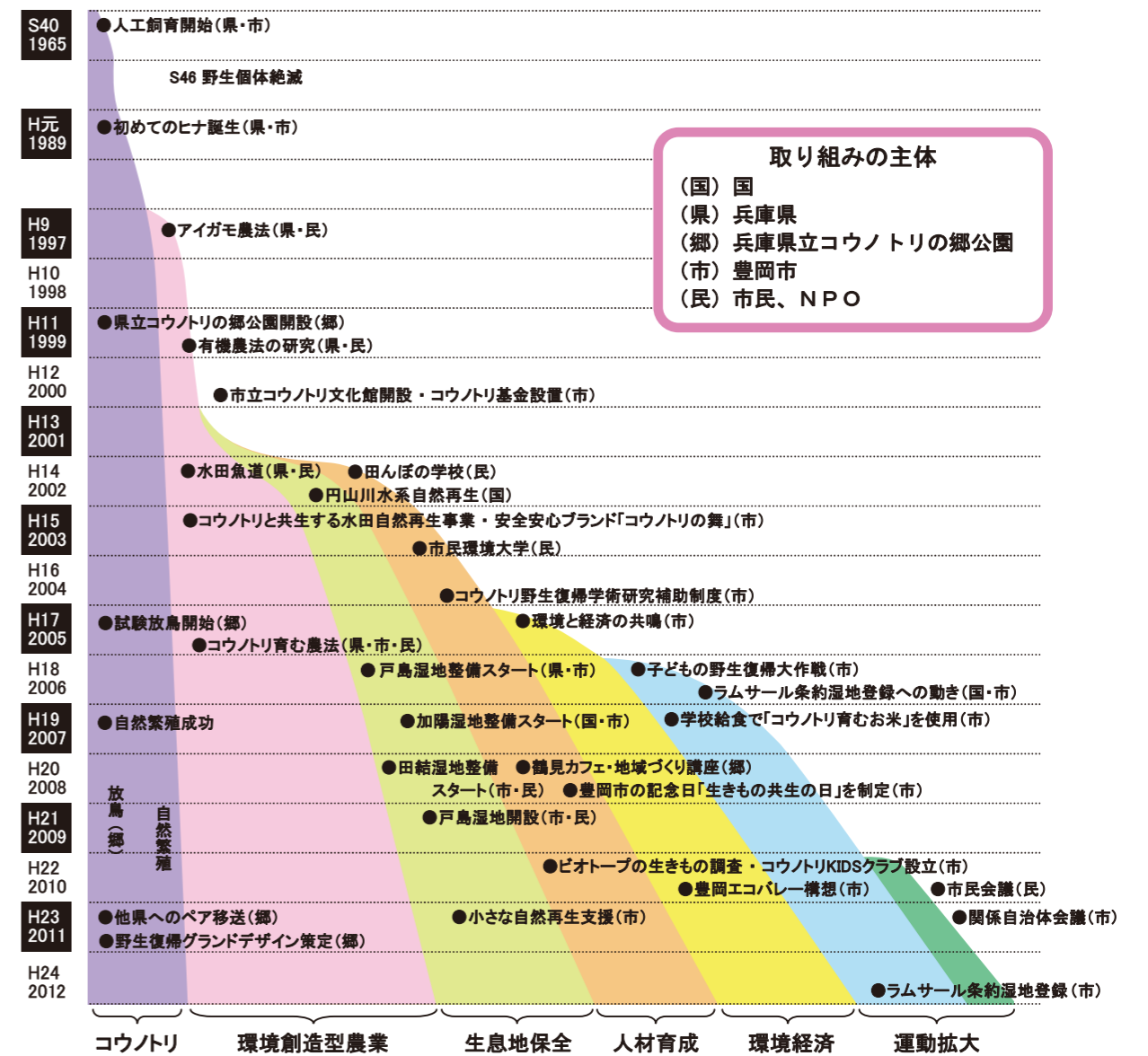
コウノトリが拓く 生物多様性の世界

私たちに、日本で一度は絶滅したコウノトリの野生復帰を通じて、長年にわたって自然再生を進めてきた経験があります。今では、数十羽のコウノトリが自然界に戻り、その生息を支える環境や生きものの裾野も大きく広がっています。「コウノトリを守ることで、健全な生態系を復活させる」という当初の目標が少しずつ実現しつつあります。

また、この野生復帰の取組みは地域づくりと一体のものであり、さまざまな分野、多くの主体との連携が欠かせません。環境創造型農業の拡大や環境と経済の共鳴などの取組みを通じてその輪は広がり、人と人とのつながりや地域活性化にも好影響をもたらしてきました。

このような連携の広がりを重視することは、地域社会に根づいた生物多様性保全を目指す本戦略の基礎となるものです。

広がり続ける取り組み



一つひとつの小さな目標の達成を積み重ねることで、私たちはようやくここまで来ました。しかし、私たちが失ってきたものの回復は途上にあり、まだ将来にバトンタッチできる基盤がしっかりと築けたわけではありません。生きものにとっても人にとっても暮らしやすい地域社会を実現していく確固たる道筋をつくることが求められています。

コウノトリが拓く生物多様性の世界。この流れを礎に、これまでに得た自信と認識できた多くの課題を踏まえ、今後も豊岡らしい生物多様性保全の歩みを着実に進めていきます。

2 目標とする姿

穏やかに響きあう いのちと地域

水浴びをする7頭の但馬牛と、それを見つめる農家の女性、川面に舞い降りた12羽のコウノトリたち——。昭和35年に市内を流れる出石川で撮影された有名な写真です。

写真の女性（故・角田しずさん）は、後に当時を振り返り、「あのころは、心が本当に豊かでした」と話されました。この写真は、コウノトリ野生復帰の目標像として、多くの人々の心を動かし続けてきました。



写真提供（有）富士光芸社

この風景は、当時の日常の一部を切り取ったものです。しかし、この何気ない風景を成立させるためにはさまざまな条件が必要であったことに気づかされます。

まずは、農業が暮らしの基礎となっていること。但馬牛は、農耕牛や種牛として各家庭で大切に育てられていました。しずさんはこの日、近所の牛を連れて水浴びをさせる当番にあたっていました。つまり、農業を通じて、隣保付き合いや共同体の強い結びつきも維持されていたはずで。

そして、山、田んぼ、川、海の水系のつながりに支えられて、川には魚をはじめたくさんの生きものがいること。だからこそコウノトリも暮らすことができ、こうしてエサをついばみに集まってきています。

人がいて、家畜がいて、大型の野生動物もすぐそばにいる——。

しずさんの言われる「豊かさ」とは？

豊岡の先人たちは、常に自然とせめぎあいながら暮らしてきました。しかし、洪水をもたらす円山川に苦しめられながらも川を大切に、柳を恵み物として商品化してきました。

生きものへもそうです。家畜だけでなく、稲を踏むと言われたコウノトリも、他方で「瑞鳥」として尊び、愛情を注ぎました。そこには、厳しい環境の中で培われた確かなまなざしがあり、互いのいのちが穏やかに響きあう関係があります。

彼女は、これを「豊か」と表現されたのでしょう。

私たちが目指すものは、さまざまないのちが穏やかに響きあい、共に生きる地域社会です。私たちの“ふるさとの原型”とも言えるこの写真は、これから先も豊岡の確かな未来像であるべきだと考えます。

『穏やかに響きあう いのちと地域』を、豊岡の目標とする姿に設定します。

3 取り組み方

大きな時間の流れを意識し 生物多様性を未来に継ぐ

かけがえない今、かけがえない一つひとつのいのち、そのいのちは永遠ではなく限りがあります。

だからこそ、今あるいのちは過去とつながり、未来とつながる必要があります。私たち人間はもちろん、小さな生きものも、地域社会も、生物多様性も。

今というこの時はもちろん、過去の歴史を尊重し、未来に影響を及ぼすという認識のもと、目標像に向けて次のように行動します。

①過去・現在・未来のつながりを意識し

- 1 **知る** 今ある生きものと地域の現状をしっかりと把握し、
- 2 **守る** 残っているものはしっかり守りながら、
- 3 **取り戻す** 壊してしまったものは元に戻しながら、
- 4 **生み出す** ないものは新しく作りながら、
- 5 **つなぐ** 次世代につなぎます。

②一つひとつのいのちに目を向け、そのいのちを

- 1 **輝かせる**
- 2 **支える**
- 3 **つなげる**
- 4 **受け継ぐ**

そして、絶えず実践と
検証を繰り返しながら
5 **挑戦する**

戦略の実施期間は → 15年

「人間社会のあまりの急激な変化に、自然が狼狽している——。」近年の地球温暖化や生物多様性の危機も、そう言い表すことができるように思います。

変化に対応できるだけの時間を保証しながら物事を進めていくことは、自然に対しても、私たちの社会においても必要なことです。生物多様性の理想像「生きものがバランスよく安定し、それが持続可能となる」姿の実現には、ゆるやかな時間感覚が欠かせません。

とは言え、例えば100年先ではその姿を確認することもできず、私たちの責任範囲を超えてしまいます。

私たちは、この戦略の実施期間を「15年」に設定します。

短いように感じられますが、15年後は今の高校生たちが大人になり、地域社会を担う働き盛りの年齢になる頃。地域の状況には、今と違った変化が見られているかも知れません。

緩やかに、かつ確実に次世代にバトンタッチし、彼らの新たな感覚に“ふるさと豊岡”を委ねたいと思います。そのバトンは、さらに次の世代へとつながっていくでしょう。



4 高校生が描く未来像

この戦略の検討には、高校生の代表6人が参画しました。
彼らが描く「豊岡の確かな未来」とは、どのようなものでしょうか？



車窓から見えてほしい、豊岡の風景は…。

私たちは、この戦略の検討委員会の話し合いの中で、生物多様性とは、ただ生きものの住める環境を守ればいいのではなく、私たちの生活のなかで、生きものと共存していける環境を作っていくことであると学びました。

そこで、私たちは「15年後に帰郷した時、電車の窓から見えてほしい豊岡」をイメージし、その要素を次のページのイラストに詰め込みました。

それは—

守りたい・戻りたい・変えたい・創りたい豊岡。



守りたい
戻りたい
変えたい
創りたい
Toyooka



5 豊岡の基本戦略

第1章で豊岡を見つめ、この第2章では豊岡に合った生物多様性の戦略について考えてきました。ここまでのキーワードを、もう一度整理してみます。

総論

- ・生物多様性は、地球規模の問題であると同時に、極めて地域レベルの課題。
- ・地域の環境（自然と文化）と切っても切れない関係にある生物多様性を守るには、**地域社会** まるごとが健全でなければならない。
- ・豊岡では、**地域の範囲として「小学校区」に着目し、校歌をイメージしながら「穏やかに響きあういのちと地域」の実現を目指す。**



高校生の思い

「帰省列車の車窓から見える風景が、これからも変わらず豊岡らしくあってほしい。」

- 守りたい** ・風景や、温かい人のつながりなど
- 戻りたい** 「大切なもの」は守りたい。
- 変えたい** ・もっと、生きものと共生するような
- 創りたい** 社会を取り戻したい。
- ・それでいて、機能的・魅力的なまちに変えていきたい。



高校生が描く未来像

守るべきもの

- ・風景
- ・地域コミュニティ（共同体）

+

変えるべきところ

- ・風景の中身
- ・コミュニティのあり方



「**穏やかに響きあういのちと地域**」の実現

※地域社会のあり方が、生物多様性のあり方を決める！

このことから、豊岡が今後進めるべき生物多様性保全の基本戦略を次のように定めます。

豊岡の
戦略の方向性

コミュニティの力で支える生物多様性保全
～地方の強みである地域力を生かす！～

すでに行われている地域活動に、自然再生や生物多様性保全の視点を加え、活動に厚みを増す中でコミュニティ自身の力を高めていく。
コミュニティの力が高まり、健全な地域社会が保たれていけば、自ずと豊岡の生物多様性は保全されていく。

コミュニティ強化と生物多様性の共鳴！

↑ コミュニティをいかした生物多様性保全 ↓
生物多様性保全によるコミュニティ強化

その単位は…

「**小学校区**」が基本
「**校歌**」で結びつく！

では、地方のコミュニティを支えているものにはどんなものがあるでしょう？

農業（第一次産業）

- ・・・地方にとって自然資源は宝です。
例えば田んぼをつくろうと思うと、必然的に共同作業が生まれます。一次産業が結ぶ共同体は重要です。

村日役（むらびやく）

- ・・・村の日役（共同作業）は、煩わしいようでありながら、地域を結びつける重要な働きを持っています。
必ず参加しなければならないというところもミソです。

公民館活動

- ・・・運動会や文化祭・・・小学校区を単位に実施される公民館活動は、コミュニティの結びつきを深めています。

PTA 活動

- ・・・子供を通じた付き合いや活動は、複数年にわたることもあり、強いつながりを生み出しています。
PTA から PTCA へ、地域との連携も重要です。

行政

- ・・・総合行政である市役所を中心に、国・県・市も地域コミュニティの重要な構成員です。
行政の方針が定まれば、地域を変えていける可能性は大いにあります。

etc

こうしたコミュニティに目を向け、その活動をベースにしながら、いかに日々の暮らしに生物多様性保全の動きを盛り込んでいけるかがテーマになります。

「**コミュニティ強化とともに実現する生物多様性保全**」が、豊岡の基本戦略です。



3 戦略を進める

定めた基本戦略のもとで、どのような具体的な戦略が描けるでしょうか。

15年間で戦略を着実に実現していくためには、

こういった手法で進めていくべきでしょうか。

また、戦略を形にするための作戦や行動とはどのようなものでしょうか。

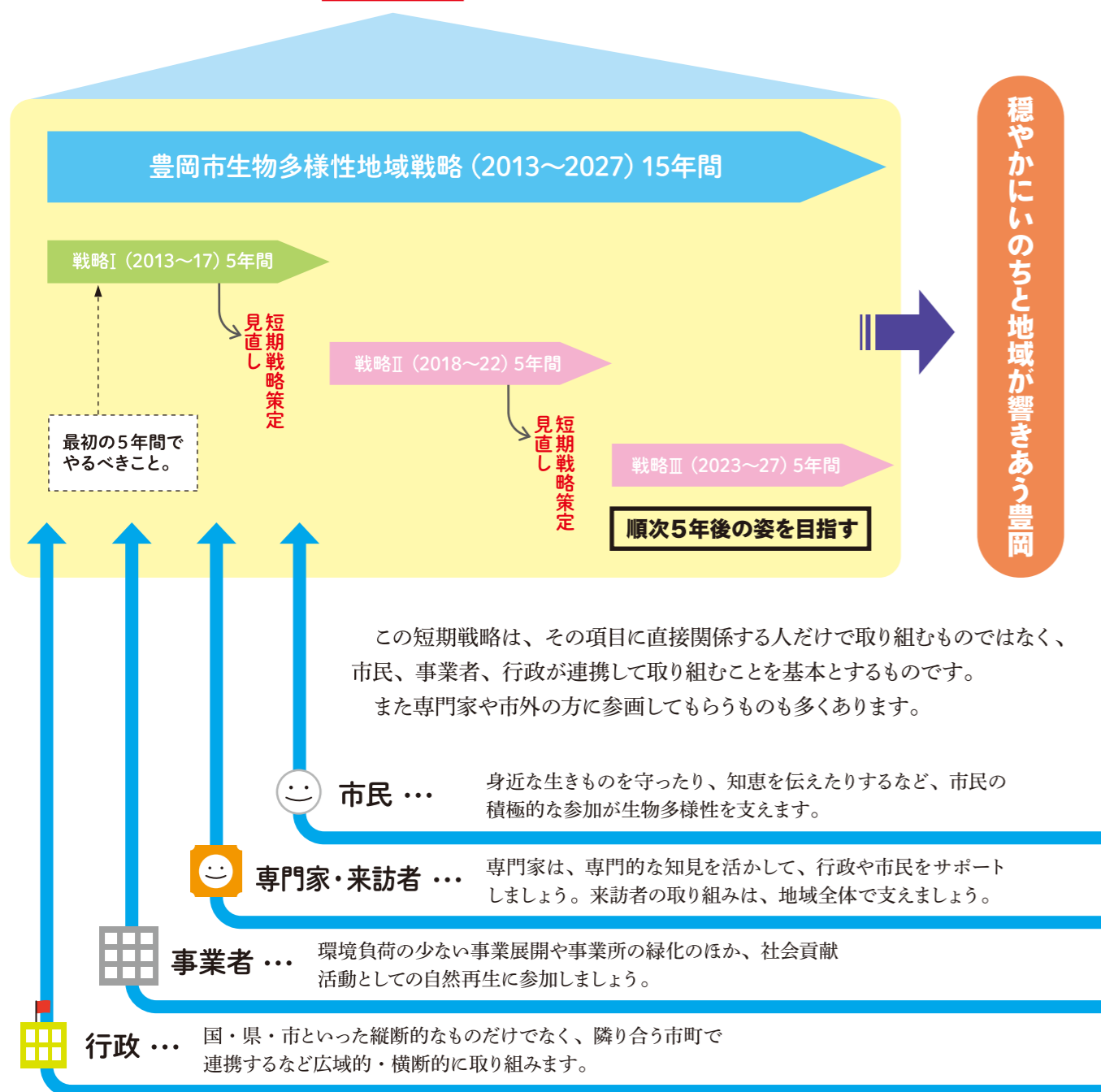
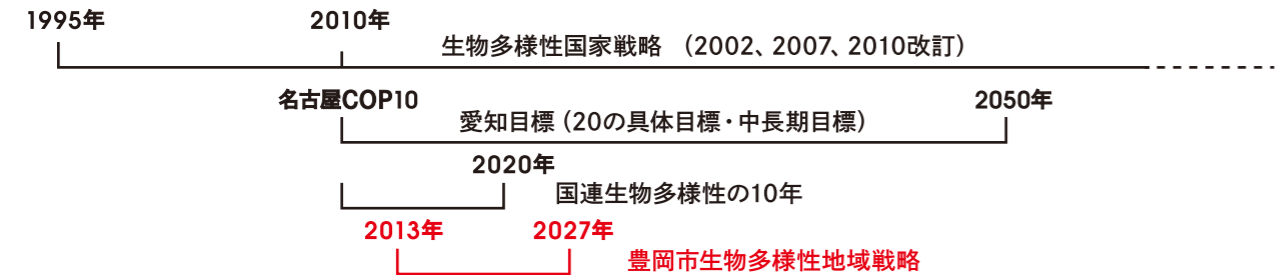
この章では、戦略を実践に移すべく、行動を具体化します。



1 5年ごとの戦略

5年を一つのサイクルに 段階的に戦略の実現を図る

15年後の目標像の実現に向けて、基本戦略のもと、5年ごとの短期戦略を定めます。
5年経過した時点で、進捗状況や自然・社会・文化環境の変化に基づいて見直し、次の5年間の戦略を立てます。
さらに次の5年間も同様に行い、この戦略の実施期間である15年を全うします。



2 目指すべき5年後の姿

目指すべき5年後の姿を描き 取り組むべき作戦(短期戦略)を整理する

地域の自然の豊かさや脆さについて、理解が深まってほしい。

豊岡には、脈々と受け継がれてきた自然が多く残っています。また、これまでの取り組みの結果、取り戻してきた風景もあります。それぞれの地域にある豊かな自然や生きものの特性を知り、保全や再生など、次の行動につなげる必要があります。

→ **まずは知る = 作戦1**

多様な生きものが住める環境が増えてほしい。

いま自然界では、人間の脅威や外来種の影響にさらされることなく動植物が生きていける環境が減少しています。地域の風土に合った本来の姿を目標に、それぞれの生きものがすみやすい場所を保全・再生・創出する具体的な行動が必要です。

→ **行動に移す = 作戦2**

地域の基盤となる第一次産業が育ってほしい。

農業に代表される第一次産業は、自然に対する働きかけが生産の基本になっています。これらの、生きもの暮らしと深く関係している産業を守り育て、自然の循環を大切にしながら、共同体の基盤を強化しなければなりません。

→ **基盤を守る = 作戦3**

人と人、地域と人とのつながりが深まってほしい。

一度失われた自然を復活し、守り、次世代へと引き継ぐ取り組みは、その関係者だけで解決できるものではありません。豊かな自然と文化を取り戻すため、さまざまな人が学び協力しあう仕組みが必要です。それは、地域の力を高めることでもあります。

→ **つながり合う = 作戦4**

作戦の実行を促すしくみができてほしい。

それぞれの作戦が実効性を伴ったものになるための手法や、サポート体制を整える必要があります。

→ **効果を高める = 作戦5**



作戦は5つ! それぞれに目標とする姿を定める

1 「まずは知る」作戦! 地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さを わかるようにします。

- 目標1
生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。
- 目標2
「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。
- 目標3
地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。
- 目標4
小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。



2 「行動に移す」作戦! 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

- 目標1
行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。
- 目標2
豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。
- 目標3
市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。
- 目標4
市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。
- 目標5
ラムサール条約登録エリアが広がりました。
- 目標6
在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。
- 目標7
希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。



3 「基盤を守る」作戦! 地域を支える第一次産業を育てます。

- 目標1
農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。
- 目標2
市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。
- 目標3
地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。
- 目標4
若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。



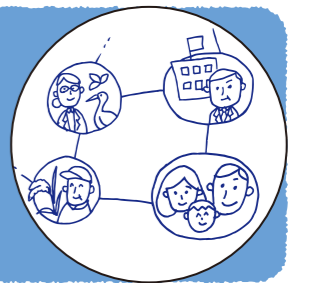
4 「つながる・つなげる」作戦! 人と人、地域と人とのつながりを深めます。

- 目標1
自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。
- 目標2
親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。
- 目標3
地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。
- 目標4
交流施設では、楽しい声が弾んでいます。
- 目標5
日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。



5 「効果を高める」作戦! 作戦を実行しやすいしくみをつくります。

- 目標1
行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。
- 目標2
この戦略の実践を支える拠点が機能しています。



4 具体的な取り組み

〈作戦1〉「まずは知る」作戦！ 地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。	関係するコミュニティ活動							
	公民館	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1. 生きもの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。								
① 豊岡に住む生きものをリストアップし、「豊岡生きもの住民票」を作成します。			○	◎	○			◎
② 豊岡らしい季節のこぼれを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。			◎	◎				○
③ 防災行政無線の放送で、これらの内容を積極的に活用します。								◎
④ 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。	○	○	○	○	○			○
目標2. 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。								
① 地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。	○			◎	○			○
② 博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。	○	○	○	◎	○			○
目標3. 地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。								
① 地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。			○	○	○			◎
② その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。			○	○	○			◎
目標4. 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。								
① 「生きもの地図」づくりをサポートするしくみをつくります。			○	○	○			○
② 地図の作成、活用に関するマニュアルをつくります。				○	○			◎
③ いくつかの小中学校区で、モデル的に「生きもの地図」を作成します。	◎	◎						
〈作戦2〉「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。								
目標1. 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。								
① 公共事業における「生きもの配慮の指針」をつくります。					○			◎
② 地域で行うクリーン作戦を「クリーン&グリーン作戦」へと転換します。			◎					○
③ 「歩いて暮らすまちづくり」に環境保全の要素を附加します。			○	○				◎
④ 生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。			○				○	◎
目標2. 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。								
① コウノトリ野生復帰に関する市民との情報共有を強化します。				○	○			◎
② 見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。				○	○			◎
③ コウノトリの生息地保全（保存・再生・創造）を進めます。			○	◎	◎			◎
目標3. 市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。								
① 「春の小川」の基準を定めます。				○	○			◎
② 「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。	○			○	○			◎
③ モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。	◎		○					○
目標4. 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。								
① 市民は、プランターや庭で緑を生み出します。			◎					
② 地域は、神社や公園を緑や生きものとの拠点として管理します。			◎					
③ 行政は、各ポイントを「回廊」として機能させることを意識します。								◎
目標5. ラムサール条約登録エリアが広がりました。								
① 登録エリアにおける保全やワイズユース（賢明な利用）の取組みを充実します。				○				◎
② 登録エリアをモデルに取組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。				○				◎
③ 学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。	◎							
目標6. 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。								
① 外来種の監視と駆除を計画的に行います。				◎	◎			◎
② 「豊岡版ブラックリスト」を作成します。				◎	○			○
③ ブラックリストを用いた学習会を開催します。				○				◎
④ 地域の共同作業に、外来種対策の要素を組み入れます。			◎					
目標7. 希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。								
① 希少生物の監視と保護を計画的に行います。				◎	◎			◎
② 「豊岡版レッドリスト」を作成します。				◎	○			○
③ レッドリストを用いた学習会を開催します。				○				◎
④ 急激に拡大し、生態系を壊しつつある害獣への対策を強化します。								◎

目標の実現に向け コミュニティを生かした具体的な行動に取り組む

〈作戦3〉「基盤を守る」作戦！ 地域を支える第一次産業を育てます。	関係するコミュニティ活動							
	公民館	学校・PTA	地域・市民	団体	専門家	農林水産業	事業者	行政
目標1. 農業や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。								
① 「豊岡市農業振興戦略」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。						◎		◎
② 田んぼや水路の生態系機能を高めます。				○		◎		◎
③ 田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。				○		○		◎
目標2. 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。								
① 生産者と市民との交流機会を増やします。						○	◎	○
② 生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。						◎	◎	○
目標3. 地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。								
① 地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。						◎	◎	
② 学校給食における地元産品利用割合を、国の基準（3割）に近づけます。						◎		◎
③ 自家消費を目的とした「我が家の畑」を応援します。								◎
目標4. 若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。								
① モデル校で、一年を通した農の営みをカリキュラムに採り入れます。		◎				○		○
② 就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。						○		○
③ 「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。								◎
〈作戦4〉「つながる・つなげる」作戦！ 人と人、地域と人とのつながりを深めます。								
目標1. 自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。								
① 「子どもの野生復帰大作戦」を充実します。				○				○
② 地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。			◎					
目標2. 親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。								
① PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。		◎						
② 生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。	○			○				○
目標3. 地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。								
① 地域の伝統行事を把握し、整理します。	○							○
② 存続の危機にある祭事（自然や生きものへのまなざし）の復活に取り組みます。			○					○
目標4. 交流施設では、楽しい声が弾んでいます。								
① 拠点施設において、生物多様性の要素を充実します。				◎				◎
② 地域施設（地区公民館）に、生物多様性の要素を付加します。	◎							◎
目標5. 日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。								
① ターゲットを見据えた交流を進め、交流人口を増やします。			○	○		○	○	◎
② 豊岡を訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。			○	○		○	○	◎
〈作戦5〉「効果を高める」作戦！ 作戦を実行しやすいしくみをつくります。								
目標1. 行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。								
① PDCAサイクルの手法を取り入れます。								◎
② アダプティブマネジメント（適応管理）の手法を取り入れます。								◎
目標2. この戦略の実践を支える拠点が機能しています。								
① まずは市役所を中心にスタートし、拠点を定め、ネットワークを構築します。	○			○	○			◎

◎ 特に主体となるコミュニティ
○ 関係するコミュニティ

団体：市民団体、NPOなど
専門家：研究者、大学など
事業者：企業、商店など



作戦① まずは知る作戦

地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。

目標1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。

「フキノトウが顔を出しているよ」と近所の人が教えてくれたり、「コウノトリ初産卵」の記事を見ると、ようやく春が足元まで来たことが実感できます。

毎年変わることなく訪れる季節ごとの自然は、私たちの暮らしのリズムを整え、心を豊かに満たしてくれるものです。また、地元で四季折々に採れる旬の食べ物は、私たちの心身の糧として恵みを与え続けてくれています。

このような“自然”や“生きもの”の様子を意識し、季節の変化を感じ取ることができるような機会を増やします。

目標を実現するために

- 1 豊岡に住む生きものをリストアップし、「豊岡生きもの住民票」を作成します。
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

豊岡の生きものの生息状況や生態などを「住民票」としてまとめ、希少な生きものを保護したり、その生息環境の保全に活用します。将来的には「生きもの戸籍簿」づくりに活かします。

- 2 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。
(地域・市民, 団体, 行政)

全国共通の時候の挨拶ではなく、豊岡にいるから感じられる季節のことばを集めます。手紙や葉書などさまざまなシーンで活用し、普段の生活のなかで生きものを感じられるようにします。

- 3 防災行政無線の放送で、これらの内容を積極的に活用します。
(行政)

- 4 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。
(公民館, 学校・PTA, 地域・市民, 団体, 専門家, 行政)



目標2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。

学校の授業や地区行事で生きもの調査を経験して、生きものが大好きになった子どもがいます。大空を舞うコウノトリに魅せられて、観察を続ける夫婦がいます。

「鳥のことならあの人に」「魚のことはあの人に」「植物ならあの人だ」など、市民の中に「生きもの博士」がたくさん現れるよう、取組みを進めます。

目標を実現するために

- 1 地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。
(公民館, 団体, 専門家, 行政)

地域では知られた「生きものや植物に詳しい人」を発掘し、市の財産として名鑑に登録します。地域の環境保全活動などで活躍してもらうことを期待するとともに、「生きもの住民票」づくりに協力していただきます。

- 2 博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。
(公民館, 学校・PTA, 地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

大人向け、子供向けの「生きもの検定」を実施し、生きもの博士を増やします。

目標3 地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。

今では、自然の様子を科学的に解明することが可能になりつつあります。上手く利用すれば、生きものやその生息地を効果的に保全することができます。

まずは、全国的に広まりつつある地理情報システム (GIS*) を活用して、地形や動植物調査結果などを一体的に管理し、生物多様性保全に必要な情報を様々な角度から検証・提案できるようします。

目標を実現するために

- 1 地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

生きものに関する情報や調査データなどをGISに取り込み、保全活動などに活用します。小学校区ごとに作成を進める「生きもの地図」の情報も盛り込みます。

- 2 その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

「豊岡版GIS」には、地域ならではの情報をふんだんに入れ込み、自然再生を通じた地域づくりへの活用を目指します。

※GIS…Geographic Information System

「ビオトープの位置」や「生きもの調査結果」といった様々なデータを、地図と結びつけて表示・分析するシステム。

目標4 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。

小学校区には、それぞれ特色ある自然環境があり、特有の文化環境が根付いています。それぞれの特徴を大切に、次世代に引き継ぐために、現在の暮らしや生きものの様子などを調べて保管し、学びに活用します。「生きもの地図」は、みんなで地域の宝物を探し、磨いていく教材として作成するものです。

目標を実現するために

1 「生きもの地図」づくりをサポートするしくみをつくります。

(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

地域全体で「生きもの地図」づくりに取り組むことを目指し、生きもの博士や公民館、専門家、市民によるサポートのしくみをつくります。作成した地図情報は、「豊岡版GIS」にも盛り込みます。

2 地図の作成、活用に関するマニュアルをつくります。

(団体, 専門家, 行政)

3 いくつかの小学校区で、モデル的に「生きもの地図」を作成します。

(公民館, 学校・PTA)

作戦② 行動に移す作戦

多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

目標1 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。

道路建設や河川改修などの公共事業を行う際には、生物多様性の損失につながる要因をできるだけ少なくするよう心がけます。行政が率先して生物多様性の保全に取り組み、市民や企業の参加を促して、その輪を広げます。平日頃から、生きものへの眼差しにあふれるまちを目指します。

目標を実現するために

1 公共事業における「生きもの配慮の指針」をつくります。

(専門家, 行政)

公共事業を行う際に、生きものへの配慮があたりまえにチェックされるようなまちを目指して、指針をつくります。

2 地域で行うクリーン作戦を「クリーン&グリーン作戦」へと転換します。

(地域・市民, 行政)

クリーン作戦の際に外来雑草を刈り取るなど、通常作業に生きものへの配慮をプラスした作戦を「クリーン&グリーン作戦」と位置づけて、地域の日役での自然環境保全が定着するようにします。

3 「歩いて暮らすまちづくり」に環境保全の要素を附加します。

(地域・市民, 団体, 行政)

市域に広がりつつある歩キング。歩いていると、車に乗ってではわからない細部の風景に出会えます。「毎日のウォーキングの際に、10本のセイタカアワダチソウを抜く！」これだけでも道端の風景が、確実に変わっていきます。気軽に行えて、健康にも環境にも良い行動を推進します。

4 生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画※」を推進します。

(地域・市民, 事業者, 行政)

※豊岡市景観計画（平成24年8月）

先人から受け継いだ「豊岡らしい風景」を未来に継承するため、市、市民、事業者が協働して豊岡らしい景観を守り育てようとする計画です。

「風景づくりの共通方針」として、以下の3項目を掲げています。

- 1) 景観の基盤となる地形風土を知り、地域環境に現れる眺めの特徴を保全する。
- 2) 自然と折り合う暮らしと土地の使い方を理解し、その空間構成を継承する。
- 3) 生物多様性を育む自然環境との調和を図る。



目標2 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。

コウノトリが地域個体群として定着できることは、生態ピラミッドがバランス良く保たれていることを示しています。現在の8ペア以上が毎年繁殖行動し、豊岡盆地を中心に市外にも生息域を広げて、豊岡の地域個体群を形成・維持している状態を目指します。

コウノトリが徐々に普通の野鳥状態になったとしても、以前にも増して暖かく見守るとともに、生息環境をより良くする手を休めません。

目標を実現するために

1 コウノトリ野生復帰に関する市民との情報共有を強化します。

(団体, 専門家, 行政)

コウノトリの生息状況や、野生復帰への取り組みの現状などの情報を常々共有できるようにし、コウノトリ野生復帰への関心を高めます。

2 見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。

(団体, 専門家, 行政)

毎年繁殖に訪れたり頻繁にエサを採りに来るコウノトリを、わが村のコウノトリとして愛着を持って見守ってもらうことから始めます。

3 コウノトリの生息地保全(保存・再生・創造)を進めます。

(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

目標3 市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。

「子どもたちに川で遊んでほしい——。」しかし現実には、そんな場所はどんどん少なくなっています。

「春の小川」とは、“清らかな水がサラサラと流れ、岸辺にはスマレやレンゲが咲き、メダカや小ブナが群れる川で子どもたちが魚とりに興じている、それを大人たちが暖かく見守っている”そんな唱歌を連想させるような小川や水路を言います。

各地域で「ここが『春の小川』になればいいな」と思う場所を決めて保全や再生に取り組み、15年後にはすべての小学校区に特徴ある「春の小川」が流れていることを目指します。

目標を実現するために

1 「春の小川」の基準を定めます。

(団体, 専門家, 行政)

2 「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。

(公民館, 団体, 専門家, 行政)

地域全体で「春の小川」づくりに取り組むことを目指し、マニュアルの作成と、団体、専門家によるサポートのしくみをつくります。

3 モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。

(公民館, 地域・市民)

春の小川

高野辰之作詞・岡野貞一作曲

春の小川は、さらさら行くよ。
岸のすみれや、れんげの花に、
すがたやさしく、色うつくしく、
咲けよ咲けよと、ささやきながら。

春の小川は、さらさら行くよ。
えびやめだかや、こぶなのむれに、
今日も一日、ひなたでおよぎ、
遊べ遊べと、ささやきながら。



目標4 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。

商店や住居が立ち並ぶ市街地にも、生きものたちが暮らしています。住宅の庭木や街路樹、公園や神社などは、河川や水路と一緒に生きて生きものが移動する回廊（生きものの通り道）の役目を果たしています。生きものの視点に立って捉え直し、人も生きものも住みやすい市街地・住宅地を目指します。

目標を実現するために

1 市民は、プランターや庭で緑を生み出します。

（地域・市民）

2 地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として管理します。

（地域・市民）

地域の神社や寺には、言い伝えと共に大きな木や古池が大切に残されています。そこは、実は生きものにとって心地よいすみかでもあります。また公園にも緑が確保され、人や生きものの憩いの場になっています。生物多様性の視点からも、重要な場所として認識する必要があります。

3 行政は、各ポイントを「回廊」として機能させることを意識します。

（行政）

庭の木や神社や公園、水路……。島状に散らばった緑地や水辺をつなげば、生きものの行動可能範囲が広がり、住宅地でも多様な生きものに出会うことができるはずです。

目標5 ラムサール条約登録エリアが広がりました。

平成24年7月に、「円山川下流域・周辺水田（560ヘクタール）」が国際的に保全すべき重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されました。このエリアでは、国内外との交流も増えて地域が活性化するとともに、生物多様性の取り組みも一層活発化の様相が見えてきました。

今後、登録エリアを拡大するとともに、登録された地域の責務として生物多様性保全活動の輪が広がることを目指します。

目標を実現するために

1 登録エリアにおける保全やワイズユース（賢明な利用）の取り組みを充実します。

（団体、行政）

登録エリアにおける活動が地域活性化の好事例となるよう、住民や団体と協力して自然再生・環境保全活動に重点的に取り組みます。

2 登録エリアをモデルに取り組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。

（団体、行政）

3 学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。

（学校、PTA）

ラムサール条約

世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約。国家間で協力して、水辺の自然を守っていくことを目的としています。

日本では、46箇所の湿地がラムサール条約湿地に登録（2012年7月時点）されており、湿原や河川のほか、田んぼや池、水深6mまでの海岸も含まれています。

豊岡では、河川、人工湿地、田んぼ、海岸などを含む「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録されており、コウノトリをはじめとする希少な生きものを育てています。

ラムサール条約の目的は“湿地の保全”です。コウノトリ野生復帰を通じて得られた経験をもとに、これらの湿地を健全な状態で次の世代へ引き継ぐことが、私たちの責務であると言えます。



目標6 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。

本来豊岡に生息していなかった外来種が増えると、在来種が捕食されたり、生息の場を追われてしまいます。また私たちの生活を脅かしたり、農作物に被害を与えることもあります。

このように外来種は、豊岡の自然環境や生態系に及ぼす影響がとても大きいので、侵入や繁殖を許してはなりません。広がったものを一度に駆除することはとても困難なので、常日頃から多くの人の目で監視し、早めに措置できるような仕組みをつくります。

目標を実現するために

1 外来種の監視と駆除を計画的に行います。

(団体, 専門家, 行政)

2 「豊岡版ブラックリスト」を作成します。

(団体, 専門家, 行政)

外来種など、豊岡本来の生態系に影響を及ぼす生きものを、「豊岡版ブラックリスト」にまとめます。

3 ブラックリストを用いた学習会を開催します。

(団体, 行政)

4 地域の共同作業に、外来種対策の要素を組み入れます。

(地域・市民)

クリーン作戦や水路清掃の際にセイタカアワダチソウを抜く。これだけでも立派な外来種対策です。市域のすみずみまで行われている共同作業。小さな意識で大きな変化をもたらすはずです。

目標7 希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。

豊岡では、ヒヌマイトトンボやアベサンショウウオ、ミズアオイなど、絶滅の危機に瀕している生きものも少なくありません。このような生きものたちを将来に残していくため、現状を的確に把握するとともに、細やかな対策を行う必要があります。

市では、希少な野生生物の研究者や保護活動をしている人と協力して、保護・増殖の対策を進めます。

目標を実現するために

1 希少生物の監視と保護を計画的に行います。

(団体, 専門家, 行政)

2 「豊岡版レッドリスト」を作成します。

(団体, 専門家, 行政)

豊岡で希少になった生きものや生態系を「豊岡版レッドリスト」にまとめます。

3 レッドリストを用いた学習会を開催します。

(団体, 行政)

4 急激に拡大し、生態系を壊しつつある害獣への対策を強化します。

(行政)

山では、増えすぎたシカが下草をすっかり食べてしまい、山肌がむき出しになっています。田んぼや畑にも頻繁に現れ、農作物を荒らします。人々の生活にも、多様な生態系にも影響を及ぼす害獣への対策を強化します。



外来種は、「持ち込まない・持ち出さない・リリースしない」が基本原則です。まずは外来種を知ることからはじめましょう。



作戦③ 基盤を守る作戦

地域を支える第一次産業を育てます。

目標1 農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。

“まずは土づくりから”で始まった「環境創造型農業」は、地元の地力を確かな知識と技術でさらに高めてきました。そこでは、農産物と一緒に多様な生きものが田んぼや畑の生態系を構成しています。農地が“安全・安心”プラス“多様な生きものの生息地”になったことで人々の関心を集め、外部との連携・交流も活発化し、農業に勢いが出ています。

「環境創造型農業」がさらに広がり、全ての農家が田んぼや畑の生きものに関心を持ってもらうことを目指します。

目標を実現するために

- 1 「豊岡市農業振興戦略※」に基づき、豊岡型環境創造型農業※を拡大します。
(農林水産業, 行政)

- 2 田んぼや水路の生態系機能を高めます。
(団体, 農林水産業, 行政)

水路と田んぼをつなぐ「水田魚道」や、生きものの逃げ場となる「マルチトープ」が、しっかりと機能するよう生産者に求めます。また設置への理解が広がるよう、働きかけます。

- 3 田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。
(団体, 農林水産業, 行政)

農業・林業・水産業などの第一次産業は、自然の恵みを一方的に利用するだけでなく、自然に対して働きかけも行うことで、長い時間をかけて豊かな生態系を形成してきました。里山は人手が入ることで生物多様性のバランスが保たれていますし、人間の作った田んぼは5000種類以上の生きものを育てています。第一次産業は、単に私たちの生活基盤を安定させているだけでなく、生物多様性の保全にも密接に関わっています。

※豊岡市農業振興戦略（平成24年3月）

持続可能な農業と、自然環境に配慮した農業の経済的な自立を目指し、環境創造型農業に特化して策定した戦略。豊かな地域資源を活かし、安全で安心な農産物を生産する元気が出る農業・農村の実現を目指している。

※豊岡型環境創造型農業

環境への負荷を軽減するため、堆肥等の有機質資材を用いた土づくりを基本に、化学肥料や農薬の使用を一般栽培の50%以上低減する農業。

目標2 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。

「朝日を受けたクモの巣が、キラキラと綺麗だった。」—— 無農薬の米作りに取り組む農家の言葉です。農薬や化学肥料に頼らない農業を続けていると、田んぼには多くの生きものが暮らすようになったと言われます。

生産者が自信をもって誇らしげに説明する姿は、魅力的で頼もしく感じます。こうした農家がさらに増えることで、第一次産業を持続可能にし、生物多様性の保全につなげることができます。

目標を実現するために

- 1 生産者と市民との交流機会を増やします。
(農林水産業, 事業者, 行政)

市民が地元の農業を知る機会を創出します。例えば、農業体験を行う小学校には、出前講座の積極的な活用を進めるなど、生産者の声を聞く機会を増やします。

- 2 生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。
(農林水産業, 事業者, 行政)

ホームページや都市部での販売促進活動を通じて、全国の消費者に豊岡型環境創造型農業の魅力をPRします。また流通事業者などと連携し、農業体験などの機会を増やします。

「安全なものが作りたいと思ったからやったんだ。儲かるとか、コウノトリのためとか、最初はそうは考えなかった。」ある農家は、環境創造型農業を始めたきっかけについて、こう語られました。安全で安心なものを食べてもらいたいという一心で環境創造型農業を続け、水が循環している農地全体で取り組む必要があると、周囲の農家を説得してまわられたそうです。今では近隣の多くの農家が、環境創造型農業に取り組むようになりました。

ポイントは「誰にでもできるから、皆で取り組むことが重要。成功者に学び、成功者の真似をすればいい。」とのこと。同じように取り組めば、自然は同じように成果を与えてくれるのだそうです。



目標3 地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。

安全で安心な食生活は、素材選びから始まると言われます。身近な場所でとれる農水産物は、新鮮であると同時に生産者の顔が見える安心なものであり、積極的に利用したい食材です。また、春・夏・秋・冬の旬の食材は、生物多様性に支えられています。

自分たちの食べる食材の生産現場を知り、食や自然への理解を深めることからはじめ、地域と農水産業が支えあう姿を目指します。

目標を実現するために

1 地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。

(農林水産業, 事業者)

「豊岡版緑提灯の店」のシステム構築を目指し、先進事例の調査や関係団体との調整を図ります。

2 学校給食における地元産品利用割合を、国の基準(3割)に近づけます。

(農林水産業, 行政)

3 自家消費を目的とした「我が家の畑」を応援します。

(行政)

「我が家の畑」は、いちばん身近な地産地消です。作物を通じて地域との交流も生まれ、地域景観にとって重要な場所でもあります。

目標4 若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。

地域を支える第一次産業を元気にしていくためには、次世代を担う若い人たちの理解と協力が欠かせません。そのためには、自分たちの生活基盤がどのような産業によって成り立っているか、しっかりと考える機会が必要です。

若い世代をターゲットに第一次産業への理解を深め、保全に取り組んだり、第一次産業に就業する若者を増やします。

目標を実現するために

1 モデル校で、一年を通した農の営みをカリキュラムに採り入れます。

(学校・PTA, 農林水産業, 行政)

2 就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。

(農林水産業, 行政)

3 「豊岡農業スクール※」などによる就農支援を行います。

(行政)

※豊岡農業スクール

新規就農者と後継者の確保・育成を目的に、就農意欲の高い若者を対象として、先進的な農業経営者のもとで技術や経営力などを習得するためのプログラム。(平成25年度～)



作戦④ つながる・つなげる作戦

人と人、地域と人とのつながりを深めます。

目標1 自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。

本来、子どもは自然のなかで遊びながら、楽しさや怖さなどを体得していきます。しかし、今日では子どもたちがのびのびと遊べる場所が少なくなっています。

自然のなかでのびのびと遊べることは、山・里・川・海が本来の姿で機能している証拠でもありますし、そのような環境を取り戻すことは、生物多様性を取り戻すことでもあります。

目標を実現するために

1 「子どもの野生復帰大作戦」を充実します。

(団体, 行政)

自然体験の場として多くの子どもたちが参加している「子どもの野生復帰大作戦」で、自ら考え行動できる子どもが増えるよう、内容の充実を図ります。

2 地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。

(地域・市民)

リタイア世代が中心となって「自然遊び教室」の講師を務めることで、子ども世代に自然との関わり方を伝えるとともに、リタイア世代の方に元気に活動してもらおうことを目指します。

活動紹介

日高町八代地区では、素晴らしい自然環境の中で子供達をのびのび育てようと、地元のジジ・ババが集まって「やしろジッパー」として活動されています。

「八代っ子自然広場」をフィールドに、地域のリタイア世代から自然との関わり方を学ぶ子どもたちの笑顔は、キラキラと輝いています。

目標2 親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。

自然の中で遊ぶことが少なくなったと言われる子どもたちですが、親世代もまた十分な自然体験を積んできたわけではありません。子どもたちと一緒に自然に触れる機会を増やし、子どもを指導することができる大人を増やします。まずは、親子で自然体験を楽しむことから始めます。

目標を実現するために

1 PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。

(学校・PTA)

2 生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。

(公民館, 団体, 行政)

目標3 地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。

それぞれの地域では、郷土かるたづくりや地域探検など、地区公民館などが主体となって地域文化の価値を再発見するための取り組みが、数多く行われています。

これらの活動を調査・整理し、小中学校でのふるさと教育などに活かすとともに、地域行事に目を向けることのできる地域人を育て、地域の無形財産を守ります。

目標を実現するために

1 地域の伝統行事を把握し、整理します。

(公民館, 行政)

2 存続の危機にある祭事(自然や生きものへのまなざし)の復活に取り組みます。

(地域・市民, 行政)

目標4 交流施設では、楽しい声が弾んでいます。

生物多様性保全の推進拠点となるコウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地、また地域の“つながり”の核となる地区公民館などの交流施設で、多くの人々が生物多様性について学びあい交流できるようにします。

目標を実現するために

1 拠点施設において、生物多様性の要素を充実します。

(団体, 行政)

コウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地では、行政と市民団体との協力体制の強化に努めます。市民団体や自然愛好家による展示を積極的に取り入れるなど、訪れる人が自然や生きものを話題にできるような場づくりを進めます。

2 地域施設(地区公民館)に、生物多様性の要素を付加します。

(公民館, 行政)

小学校区を単位とした“つながり”の核となる公民館へは、出前講座や講師派遣などの支援を充実します。地域の人々が活動への参加を通じて、まちづくりのために集まるきっかけとなるように働きかけます。

目標5 日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。

豊岡には、世界ジオパークに認められた山陰海岸やラムサール条約登録湿地など、地域固有の自然・文化・歴史によって形成され、世界に認められた自然環境があります。これらの自然は、多様な生きものの生息地として重要な場所であると同時に、コウノトリとともに暮らす、独特の文化を生み出してきました。

このような独特の自然環境と文化環境に魅せられた人たちが豊岡を訪れ、地元の人々と交流している姿を目指します。

目標を実現するために

1 ターゲットを見据えた交流を進め、交流人口を増やします。

(地域・市民, 団体, 農林水産業, 事業者, 行政)

2 豊岡を訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。

(地域・市民, 団体, 農林水産業, 事業者, 行政)

作戦 5 効果を高める作戦

作戦を実行しやすいしくみをつくります。

目標 1 行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。

「穏やかに響きあういのちと地域」という目標像の達成にむけて、一つひとつ確実に実行していくことは、いわば“挑戦する”ということです。必然的に試行錯誤が基本となるでしょうから、行動計画に掲げる項目の全ては、「見直し」の手法をとります。

目標を実現するために

1 PDCAサイクルの手法を取り入れます。

(行政)

2 アダプティブマネジメント(適応管理)の手法を取り入れます。

(行政)

目標 2 この戦略の実践を支える拠点が機能しています。

この戦略の実践には、学校、地域、団体、専門家などの参画が欠かせません。
市は、コウノトリ文化館・ハチゴロウの戸島湿地などの市の施設だけでなく、環境省竹野スノーケルセンター、県立コウノトリの郷公園など、国や県の機関とも連携しながら戦略を着実に進めます。

目標を実現するために

1 まずは市役所を中心にスタートし、拠点を定め、ネットワークを構築します。

(公民館, 団体, 専門家, 行政)

5 推進のあり方

豊岡市生物多様性地域戦略を確実に実践し、目標とする“穏やかに響きあういのちと地域”を実現するためには、市民、専門家、事業者、行政などがそれぞれの役割を十分に認識し、相互に連携する関係を構築することが重要です。

また、さまざまな主体と協働してこの戦略の進捗状況を点検し、施策の見直しを行うことも必要です。

市では、各主体間の連携を強化して戦略の推進を図るとともに、戦略の成果を検証する仕組みを構築し、この取り組みを確かなものにします。

各主体間の連携の推進

市は、関係する主体を横断的につなぐ役割を担います。生物多様性保全に取り組む人や組織のネットワークを広げ、情報の共有・発信と相互の連携を強め、効果的な活動を推進します。

市役所内部の連携の推進

戦略の実践には、個別の担当部局だけでなく、市役所内部の連携も欠かせません。そのため、関係する部署による庁内ワーキングを進めるなど、連携しながら戦略を実践します。

様々な主体との協働の推進

この戦略は、学識経験者・市民・NPO・高校生・国・県などと協働して検討を進めてきました。戦略の実践段階においても様々な主体と協働し、目標の実現を図ります。

成果の検証

市民・専門家・NPOなどによる、戦略の進捗状況を点検し、成果を検証する組織を立ち上げます。生物多様性の状況を評価する指標を設定し、現状の分析と新たな施策の検討を進めます。

また、検証の結果を適宜公表し、取り組みの質を上げるとともに、協働の輪を広げます。



今後に向けて 4



今後に向けて

心満たされる豊岡への旅

日頃、仕事で旅をすることが多い私ですが、豊岡は、機会あればいつでも訪れたい旅先です。山から川をへて海につながる水の流れを縦糸に、水田を含む湿地の広がりや横糸に織りなす豊かな水の風景は、健やかな生態系の力を感じさせてくれます。瑞々しく変化に富んだその大地を空から見下ろしながらコウノトリたちが翼を大きく広げて自由に飛び交います。この地では毎年何羽ものコウノトリが生まれ育ちます。豊かな水の大地に、生きものにも人にも優しいまなざしを向ける人が多く住んでいらっしゃる土地柄を、今もっともよく表しているのは、着実に増え始めたコウノトリたちだといってよいでしょう。

その豊岡市で「生物多様性戦略」をつくる話し合いに参加させていただいたことは、保全生態学の研究者として「生物多様性の保全」や「自然再生」を研究してきた私にとって、意義深くまた何よりもうれしいことでした。委員会は、生物多様性にさまざまな立場からかわる方たちが参加し、男女の数は半々、学校推薦の高校生6人が若者の代表として加わっていました。最初は「生物多様性」という言葉には馴染みがなく、他の委員への質問役だった高校生は、会議を重ねるにつれて、積極的に提案を発言してくれるようになりました。その集大成は、高校生委員全員が話し合いを重ねてイメージを共有し、イラストで描いてくれた「未来図」です。

ビジュアルな表現を重視したこの「戦略」の圧巻ともいえる未来図は、私たちの想像力をほどよく刺激します。車窓からコウノトリ飛び交う田園風景を眺めているのは、将来、進学や就職などで豊岡を離れ帰郷の途につく将来の高校生委員でしょうか。それは豊岡が好きで、四季折々繰り返し訪れる旅人かもしれません。車いすに座っているのは豊岡生まれのお年寄りでしょうか。豊岡を終の住処として移り住んだ新しい住民かもしれません。農作業に勤しむ人々は、協力を惜しむことのない仲の良い家族でしょうか。農業体験に訪れた大都市の人たちで、日頃この農園の生産物を産直で利用している人たちのようにも見えます。

農薬や化学肥料を控えた農業を広げることは、自然環境を健やかに保ち、子どもたちが心身ともに健やかに育つため、今もっとも強く求められていることですが、鋭く世界を「俯瞰する目」をもつコウノトリに学び、豊岡はその実践の先頭に立っています。それは、曇りのない目で未来を見つめるすべての人が求めていることでもあり、豊岡の一次産物の人気はますます高まるでしょう。

この戦略の実践に伴い、豊岡で生まれ育った人も、豊岡に心を寄せしばしば訪れる人も、この地には「心を満たすもの」が豊かに宿っていることをますます強く感じるようになることでしょう。それは「生物多様性」という言葉で表現することもできますが、土地とそこに暮らす人たちの「総合力」と「命への優しいまなざし」といえるでしょう。

この戦略の計画期間は15年です。これから時折豊岡を訪れて、戦略にまとめられた計画が実現していく様子を見守るのが楽しみです。「生きもの博士」は増えていくでしょうか。地域の文化と伝統的な智慧・技はしっかり受け継がれるでしょうか。

この戦略が、これまで以上に私を豊岡に結びつけてくれたことを、深く感謝します。

平成25年9月

豊岡市生物多様性地域戦略検討委員会
委員長 鷲谷 いづみ



豊岡市生物多様性地域戦略検討委員会

委員名簿(敬称略)

氏名	所属	性別	備考
学識経験者			
鷺谷 いづみ	東京大学大学院	女	委員長
江崎 保男	兵庫県立大学・兵庫県立コウノトリの郷公園	男	
三橋 弘宗	兵庫県立大学・兵庫県立人と自然の博物館	男	
市民識者			
菅村 定昌	NPO法人コウノトリ市民研究所	男	
佐竹 節夫	NPOコウノトリ湿地ネット	男	副委員長
本庄 四郎	竹野スノーケルセンター・ビジターセンター	男	
木村 尚子	コウノトリ生息地保全協議会	女	
成田 市雄	環境創造型農業実践農家	男	
行政側識者			
福 嶋 彩	国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	女	
小谷 芙蓉	環境省 近畿地方環境事務所 竹野自然保護官事務所	女	
永井 裕美	兵庫県 但馬県民局 豊岡農林水産振興事務所	女	～H24.3.31
村田 聡樹		男	H24.4.1～
将来世代の目線			
井上 弥生	豊岡市立八条小学校(教諭)	女	
堀田 愛美	兵庫県立豊岡高等学校 (高校生)	女	
向藤原 由弥		女	
文字 健瑠	兵庫県立豊岡総合高等学校(高校生)	男	
今井 一樹		男	
小西 咲妃	近畿大学附属豊岡高等学校(高校生)	女	～H24.3.26
旗町 美沙希		女	H24.3.27～
松本 岳大		男	

委員会等開催状況

平成 23 年度	
H23.11.1	第1回検討委員会
H23.12.23	勉強会(各委員の活動状況報告会)
H24.3.15	意見交換会(市民識者)
H24.3.21	意見交換会(高校生委員)
H24.3.27	第2回検討委員会
平成 24 年度	
H24.5.14	勉強会(神鍋高原周辺の植物観察会)
H24.10.23	第3回検討委員会
H24.12.19	高校生部会(第1回) ※未来像を描くための部会として開催
H24.12.27	高校生部会(第2回)
H25.1.10	高校生部会(第3回)
H25.1.21	高校生部会(第4回)
H25.1.28	高校生部会(第5回)
H25.2.14	第4回検討委員会
H25.3.9	市民説明会
H25.3.13	第5回検討委員会
平成 25 年度	
H25.4.9	生物多様性地域戦略(検討案)を市へ提出

本戦略策定にあたり、下記の機関・団体から資料・写真等をご提供いただきました。

東京大学	環境省 近畿地方環境事務所
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所	国土交通省 近畿地方整備局
兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県
兵庫県立コウノトリの郷公園	竹野スノーケルセンター・ビジターセンター
NPO法人コウノトリ市民研究所	(有)富士光芸社
NPOコウノトリ湿地ネット	桃島池の自然を考える会・松本逸朗

ありがとうございました。

豊岡市生物多様性地域戦略

—いのち響きあう 豊岡をめざして—

発 行

2013年9月 豊岡市

兵庫県豊岡市中央町2-4

TEL 0796-23-1111

URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>
